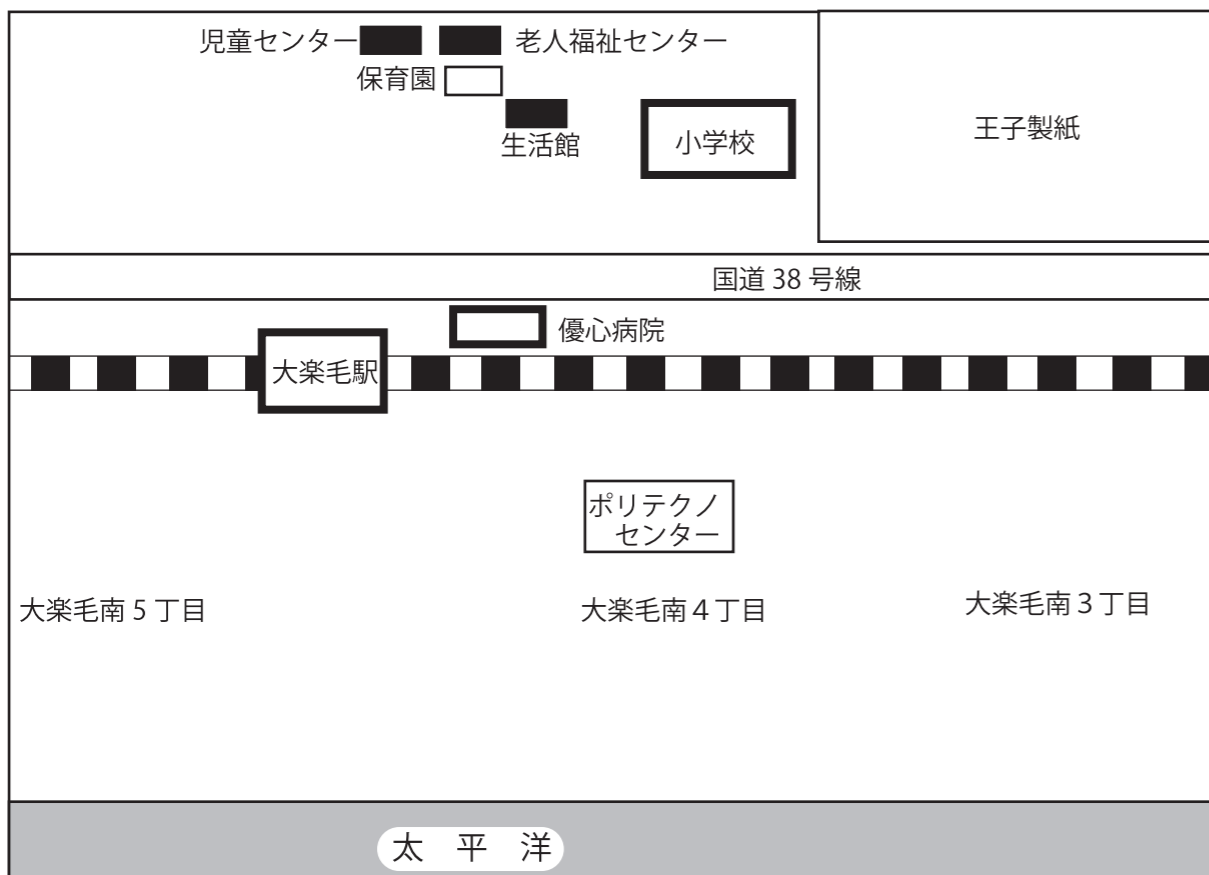


# 大楽毛の津波避難施設

## 複合施設は小学校近くのいまの場所に 鉄道の南側には別の避難施設を整備すべき



大楽毛南地域は、線路で分断され、踏切も少なく、しかも国道まで出ても渋滞に遭遇することになります。大楽毛南3丁目、4丁目のあたりに、「津波避難タワー」あるいは、それに代わる施設をつくるべきです。新型コロナのことで避難施設でもソーシャルディスタンスの確保が必要です。津波避難施設も複数必要になるかもしれません。

日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震の予想津波高が内閣府から発表されました。釧路市は震度6強、最大津波は20・7m、釧路港では8・3mに達します。高い建物がなく、津波避難困難地域に指定されているのが「大楽毛南地区」、この解決が大きな課題になっています。

### 大楽毛の「複合施設」とは？

生活館、児童センター、老人福祉センターの三つを統合して、避難施設にも使えるような高さの「複合施設」をつくってほしいと、地元の町内会から要望が出ています。

村上議員は、「複合施設を避難所にするという考えはありえる。ただし、児童センターの学童保育や近くの保育園の避難施設を考えると、複合施設は現施設の近隣地にすべき。」と質問。市も「地元町内会からの要望も、現施設の隣にというものです。」との答えがありました。

鉄道の北側の「津波避難の拠点」として複合施設を活用することが、最も合理的です。

### 南側には別の避難施設を

しかし、そうすると肝心の津波避難困難地域の線路の南側の人たちが逃げられません。新たな「複合施設」は遠すぎて逃げられないからです。

やはり、線路の南側の大楽毛南地区には、村上議員がずっと提案しているように、津波避難タワーのような別の避難施設が必要です。

以前に検討された「ポリテクノセンター」は二階建てです。高さが不十分ではないでしょうか。市は避難可能な施設の洗い出しも含めて、大楽毛地域全体の避難施設を検討する考えです。



釧路新聞の6月13日の記事は、大楽毛の「複合施設再配置検討も」の見出しで議会の議論を報じています。

2020.7.5  
村上かずしげ通信  
発行 共産党市議団 Tel23-5212